

層

重ねて魅せる癒しの風景

a2200912 木村由貴実

研究概要

新しい今までにないような漆を用いた表現について研究制作します。

背景・目的

私は短大で二年間漆を学んできて、漆は器物だけでなく造形といった様々なものに用いることができることを知りました。現代の人たちは漆=器物というイメージを持つ人がほとんどで、暮らしの中で使われる漆器も少なくなった今では漆への関心を持つ機会が少ないです。そういった人たちにも今まで学んできた漆の美しさや面白さを伝えたいと考えました。漆の持つ質感や光に照らされたときの美しさを最大限活かし、漆の新しい表現方法を見つけたいと思いました。そこで、私は透過する光と漆の表現の二つを調和させることによって装飾の今までにない美しさを生み出せるのではと感じました。また漆を用いて新しい表現を創り出すことにより現代の人が漆への新たなイメージを持つきっかけの一つにしたいです。そして、漆の新しいニーズの可能性を見つけだしていきたいです。

デザイン

透明樹脂を用いて漆芸パネル作品を制作する。癒しをイメージした絵柄にします。

樹脂のサイズ...正方形 15×15 (cm)

長方形 10×25 (cm)

素材...梨子地 色漆 螺鈿 卵殻 錫 石膏

制作工程

1. 絵柄、サイズの決定

樹脂の型制作

2. 雄型を作るための木枠の制作

3. 石膏流し

4. 雌型を作るための木枠の制作

5. 石膏流し

6. 雄型をはずす

樹脂制作

7. 石膏を乾燥させる

8. 離型剤を塗る

9. 樹脂を流す

10. 置目をする

11. 色漆等で絵柄を描く

12. 石膏を乾燥させる

(9-12を繰り返し行う)

額制作

13. サイズの決定

14. 額の制作

15. 樹脂をはめ込む



雄型の制作



雄型をはずす



樹脂の型の完成



樹脂を流す



蒔絵をしていく



考察・感想

漆を透過性のある素材と組み合わせて表現する上で、いかに漆の良さを伝えるかがとても難しかったです。樹脂を使うことが初めてだったため、最終成果物のイメージがなかなかつきませんでした。透明感を出すために色漆を用いたが、色漆だけだと漆の質感が全く伝わらず試行錯誤しました。そこで錫などを蒔くことにより蒔絵らしさを出すようにしました。しかし、樹脂を何度も重ねて蒔絵をしていき立体感を出すように絵柄をつけていく事に苦労しました。卒業研究を通して感じたことは、漆の表現の広さと新しいことにチャレンジする事の難しさです。どのように加飾していくかで、漆の美しさの際立ち方が変わるので、それを考えながら作業していくのが一番楽しかったです。樹脂と漆のコラボという新しい試みをしていきましたが自分の経験と知識の浅さもやはり作業効率がかどりませんでした。卒業研究を通して、改めて漆の奥深さや表現の幅の広さを実感しました。また、デザインとは自分が良ければいいのではなく、多くの人に共感してもらえるデザインにしなければいけないだと再認識しました。独りよがりな考えは捨て、ほかの人の意見をしっかりと受け入れながらオリジナリティ溢れるものづくりをこれからしていきたいと思いました。